



令和7年3月25日  
小田原市立報徳幼稚園  
園長 岩田 京子

早咲きの桜が咲き、春が訪れるのを知らせているようです。

年長組のほし組さんに憧れ、その姿を追いかけているいろいろなことに取り組んできたばら組さん。4月に年長組になったときに、どのような活躍ぶりを見せてくれるのか、今から楽しみです。

このように子どもたちの成長を感じながら、令和6年度の終わりを迎えることができるのも、保護者の皆さんの温かいご理解とご協力のおかげです。職員一同、心より感謝申し上げます。

### 【たくさん遊んだね！】

令和6年度は年長組と年少組と一緒に遊びを行う『複式保育』を取り入れてきました。第3学期、ほし組は『お城ごっこ』がしたいと考え、遊びがスタートしました。ばら組は、それぞれがやりたい遊びを考え、電車に消防車、お花屋さんの花束をつくり始めました。初めは1階の保育室で遊びを進めていましたが、次第に遊びが広がり、遊びの場を2階へ移しました。年長さんたちがお城をつくらせている横で、線路づくりが始まり、次第に年長の遊びと年少の遊びがつながり出しました。線路に踏み切りをつくり、「遮断機を動かしたい！」と悩んでいると、「紐をつけて動かすようにしたら！」と、ほし組さんがアドバイスをしてくれたり、「消防車で消火活動をしたい。」という意見に、早速ドラゴンをつくり、炎を吐き出すようにつくってくれたり、ばら組さんの考えだけでは難しいところと一緒に考えることで遊びが進化することもありました。つくっては遊び、つくっては遊びを繰り返していくうちに、子どもたちから、「家の人にも遊んでほしいな。」と、自分たちが作り上げた、自慢の遊びを経験してほしいという気持ちをもつようになりました。そして、家の人を招待する日を決め、ワクワクドキドキの日々は続きました。

#### 室内遊び



新幹線のこまちづくりは、友達も乗せてあげたいと3号車までつくります。



線路ができあがると新幹線こまちは、たくさんのお客さんを乗せて運行します。



店の名前を相談し、『きらきらはなやさん』に決めました。



年長さんがつくっているお城の中では、パーティーが行なわれていました。



お城で寝るための大きなベッド。ふかふかです。



「踏切が上がったり下がったりするようにしたい！」という相談に、ほし組さんが一緒に考えてくれました。

## お家の人を招待



新幹線こまちはお客さんを乗せて走ります。



『きらきらはなやさん』にもお客さんがたくさん来てくれました。



お城のドラゴンが火を噴くと、急いで消防車が出動。消火活動を行います。

## 【外でもいっぱい遊んだよ！】

室内だけでなく、戸外でも元気に遊びました。鉄棒、縄跳び、のぼり棒、いろいろな遊びに挑戦しました。土俵では相撲遊びも始まり、力強く遊ぶ姿を見せています。ほし組さんと一緒に遊んだ『逃走中』が一番人気！園庭を思い切り走り回っていました。



## 【城北中学校3年生との交流】

城北中学校の3年生が手作りおもちゃをつくってくれ、一緒に遊ぶことができました。ボーリング、キャタピラー、的あて、新聞紙プール、絵本など、教室や体育館で、交流を楽しんでいた子どもたちでした。



### 【未就園児との交流】

2月3日（月）未就園児と一緒に豆まきを行いました。優しい鬼たちは、ちびっ子たちが豆を投げて  
も笑顔で逃げていました。



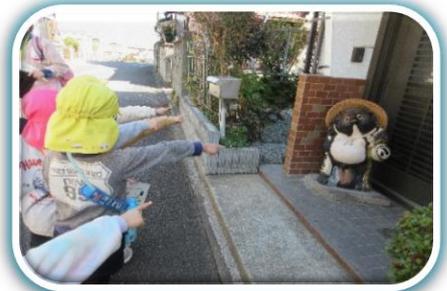
### 【年長から年少へバトンタッチ】

ほし組さんと一緒に初めての挨拶運動を行いました。友達が登園してくると、「アッ、来た！」と喜び、満面の笑みで、「おはようございます。」と挨拶をしていました。友達と一緒に挨拶をすることで、挨拶を交わす楽しさを感じてくれればと思います。挨拶は、人と人をつなぐ大切なツールの一つです。その場に応じたいろいろな挨拶が自然に言える子どもたちであってほしいです。



### 【お別れ散歩】

3月10日（月）に、年少、年長一緒にウォークラリーをしながらお別れ散歩を行ないました。桜、水仙、白鷺、富士山、タヌキの置物、二宮金次郎などを探しながらの散歩を楽しみました。



### ほし組さん、卒園おめでとう！

18日（火）、第46回卒園式が行われ、6名の卒園児を見送りました。ばら組の子どもたちは、お兄さん、お姉さんが修了証書をもらったり、大きな声で話をしたりする姿を憧れのまなざしで見っていました。ばら組の子どもたちも、立派な姿勢で、参加することができました。

ほし組の子どもたちの胸には、家の人と一緒につくったお祝いのコサージュが輝いていました。見送りのご協力もありがとうございました。



年少組の終りの節目に、お子さんの成長を振り返ってみてください。そして、頑張っていたこと、成長を感じたことをお子さんに伝え、家族で喜んであげてください。家族の喜びとなると共に、今後のお子さんへどのような援助をしたらよいかということも考えられるかと思います。そして、お子さんから親として成長させてもらったことを実感し、感謝してください。私も同様にして、次年度を迎えるつもりです。

来年度も、たくさんの学びと成長がありますように…

